

石破新政権の打倒掲げ11・3へ

日比谷野音→銀座 6000人反戦デモを

10・1国会闘争で石破政権との対決宣言

臨時国会が10月1日招集され、石破新政権が登場しました。改憲・戦争阻止！大行進などにより中国侵略戦争阻止、石破政権打倒の国会闘争が闘われました。その際の基調報告を紹介します。

本日、私たちは、中国侵略戦争に突き進む石破新政権の打倒を宣言します。米日帝の中国侵略戦争を阻止し、石破打倒の決戦こそ、11・3日比谷野音への6000人結集と首都東京を揺るがす反戦デモです。

中国侵略戦争に突き進む石破新政権の打倒を

改憲・戦争を競い合った自民党総裁選を経て石破新政権が午後の本会議で発足します。

自民党新執行部と新内閣には4人の防衛大臣経験者が入る文字通りの戦争突撃政権です。日帝の絶望的な体制的危機の突破をけ開始された中国侵略戦争を誰が担うのか。これに対するブルジョア階級の選択が石破新政権の登場です。

石破は昨日の記者会見で総選挙を10月27日に行うと発表しました。

国会での首班指名を待たずに一気に解散・総選挙を行うやり方に、

新政権の危機性と凶暴性がはっきりと刻まれています。

石破は、中国侵略戦争に向かって岸田・バイデンの4月日米会談・共同声明による日米安保の大転換を露骨に突き進む以外にありません。

米海軍の「航海計画2024」では「27年までに中国との戦争が起ることに備える」が公然と打ち出さ

れています。

総裁選で石破が主張した「核共有」「改憲」「アジア版NATO」はすべて中国侵略戦争に向かう日米共同声明路線に集約される以外にありません。そのために大軍拡予算を成立させ、大増税、社会保障と生活の破壊をはじめ、労働者人民に一切の犠牲を転嫁しようとしている。断じて許すわけにはいきません。

しかし、石破政権はこうした攻撃は労働者階級との力関係の転覆なしに貫徹することはできません。

岸田は、日本労働者階級の戦争絶対反対の怒りに包囲されて打倒されました。弾圧や集会禁止をはねのけ、徹夜で座り込みスクラムを組んで実力で原爆ドーム前集会をかちとった8・6広島闘い——このように闘えば勝てる。戦争を内乱に転化する闘いにこそ労働者階級の勝利の展望があります。中国侵略戦争阻止、安保・沖縄闘争の爆発で石破は打倒できるといっています。

中国侵略戦争に突進する石破と自

民党に対して「日米同盟、安保外交政策は転換しない」と言って中国侵略戦争推進を明言した野田と立憲民主党、この立民との野党共闘にしがみつきの労働者人民の反戦闘争への決起に襲いかかる日本共産党スターリン主義。

総選挙に労働者階級の選択肢は存在しません。排外主義を煽り改憲・戦争を競い合う総選挙反動を吹き飛ばして、中国侵略戦争阻止・石破打倒の反戦闘争の爆発をかちとることが労働者階級の回答です。

職場・地域・学園から反戦デモ・ストライキを爆発させよう。日比谷野音に6000人の結集をかちとり首都東京を揺るがす反戦デモを訴えよう。

激化する中国侵略戦争情勢との対決を

日米共同統合実動演習「キーン・ソード25」が10月23日から11月1日に実施されると発表されました。

【裏面に続く】

11・3全国労働者総決起集会

11月3日(日) 正午 日比谷野音楽堂
午後3時 改憲阻止！1万人行進(東京駅へデモ)



自衛隊3万3千人、米軍1万2千人、日米合わせて艦艇40隻、航空機370機の動員、島しょ防衛やミサイル防空の演習とされ、陸自オスプレイが沖縄本島・与那国島に飛行し、奄美と石垣では高機動ロケット砲ハイマースの訓練が行われます。

北海道から沖縄まで民間の特定利用空港・港湾を自衛隊と米軍が使用。三陸沖、四国沖、日本海での海上演習。さらにオーストラリア軍とカナダ軍が初参加。まさに中国を仮想敵国とする実動演習であり、対中国作戦としての遠征前進基地作戦EABOの実戦演習です。



さらに9月25日の海自護衛艦さざなみの台湾海峡通過、現在行われている横田基地での米軍機からの習志野空挺隊の降下訓練。これらはキーンソードと一体の対中国侵略戦争への重大な踏み込みです。

陸自は、9月2日から11月下旬まで全国の部隊10万人が参加する「陸上自衛隊演習」をキーン・ソードと連携して実施。つまりキーンソードを要として沖縄・九州・全国で十数万人を動員する大演習であり、これこそ米日帝の中国侵略戦争そのものです。

沖縄・琉球弧では、米海兵隊の改編や嘉手納基地をはじめ米軍の臨戦態勢化が進められています。辺野古新基地建設、ミサイル部隊をはじめとする自衛隊大増強、文字通りの軍事要塞化・侵略最前線基地化。沖縄県民の基地と戦争、中国侵略戦争に対する怒りの決起は必ず巻き起こります。

右翼と対決し武器見本市やめろ幕張メッセ前のデモ(9月29日)

中国侵略戦争切迫下で米兵による性的暴行事件が次々起こり、日帝による隠蔽が暴かれています。被害当事者の無念と怒り、沖縄の怒りは出口を求めて充満、沸騰しています。本土における沖縄闘争、安保・沖縄闘争の爆発こそ労働者階級の回答でなければなりません。

総裁選で沖縄に乗り込んだ石破は、「台湾有事は日本有事」、「辺野古移設は地域の安全保障と抑止力を維持するために必要」と言明。またかつて(13年)自民党幹事長だった石破は沖縄出身の自民党議員を自民党本部に呼びつけて辺野古移転容認を強制しました。

これは「平成の琉球処分」と呼ばれています。石破はまさに沖縄県民の不倶戴天の敵です。打倒以外ありません。

**パレスチナ蜂起1周年10・7イ
スラエル大使館包囲、新宿反戦
デモを実力で闘おう**

米大統領選挙は、米帝の歴史的没落と中国侵略戦争―世界戦争に向かう趨勢を明らかにしています。バイデンは80億ドル1兆1千億円の新たな支援を打ち出し、ウクライナ軍による越境攻撃、長射程ミサイルの口

シア領内攻撃、F16戦闘機の使用開始と戦争はさらに激化・泥沼化しています。

米帝・イスラエルによるガザ大虐殺をただちにやめろ!

ガザではすでに4万人以上が死亡、ヨルダン川西岸での空爆と虐殺が繰り返されています。さらにネタニヤフは米国の支持をもってレバノンに対する大空爆と地上侵攻を準備し、すでに1千人以上の死者と百万人をこえる難民が発生しています。2千枚爆弾やバンカーバスターの使用は、パレスチナの民族抹殺を狙いものであり、断じて許すことはできません。

そしてこの大虐殺―侵略戦争を、米帝はバイデンとハリスもトランプも、そして日帝とG7帝国主義は、イスラエルの自衛権の名の下にこれを支持し、加担・推進しています。

目の前で進行する戦争の根源は、戦後の基軸国であるアメリカが歴史的体制的没落を深め、自らの体制的延命と「世界帝国」としての維持をかけて対中国の侵略戦争に突き進んでいることです。

帝国主義の世界支配の危機こそが戦争の原因です。日本の労働者階級にとって決定的なことは中国侵略戦争―世界戦争をとめる闘いに立ち上

がることです。パレスチナ人民と連帯し、戦争と虐殺の元凶―帝国主義を打倒しよう。

私たちは今こそ、米国で巻き起こるパレスチナ連帯の闘いに続き、10・7蜂起1周年の当日である10月7日にイスラエル大使館を実力で包囲・弾劾する闘いに立ち上がろう。そして新宿駅頭で労働者人民の圧倒的合流をかちとる反戦デモにうつってよう。

11・3集会に結集する労働者人民、青年・学生、この数こそ最大の力で。すべての仲間を対象化して組織し、さらに新たな仲間を反戦闘争にストリートに大胆に組織しよう。本日闘いを出発点に、11・3日比谷野音に6千人の大結集をかちとり、首都東京を揺るがす中国侵略戦争阻止の大反戦デモに立ち上がろう。